

全国の電力会社や官公庁など、関係機関との連絡手段としてメールは必要不可欠

パソコンHDDの故障監視により、重要なメールデータの保全対策を実現へ！

電気事業連合会 様

user profile
(2008年2月末現在)

所在地：〒100-8118 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 5F

設立：昭和 27 年 11 月 20 日

会 員：一般電気事業者（電力 10 社）

「SmartHDD Manager」ご導入台数：220 台

ホームページ <http://www.fepc.or.jp/>

“電気事業”はまさに日本のエネルギー基盤を支える基幹産業ですが、この電気事業を円滑に運営していくことを目的として 1952 年に設立されたのが電気事業連合会様です。現在、全国の 10 電力会社が会員になっており、日本の電気事業の中核として、電力会社間の緊密な対話や交流、活発な意見交換が日々行われています。

今回、翌月からの本格稼動を前に「SmartHDD Manager」をご導入いただきました経緯などを情報通信部 副長の柴田様に伺いました（2008 年 2 月 取材）。

導入の経緯 PC に保存しているメールデータについて、保全対策が求められていた

■ まずは、データ保全対策システムの導入をご検討されたきっかけについて教えてください。

電気事業連合会は、業界団体として全国の電力会社や官公庁など多数の関係機関と連絡をとりながら運営を行っており、電子メールは今や必要不可欠なコミュニケーションツールとなっています。以前、Web メール形式の電子メールシステムを利用していましたが、使い勝手の問題があり、数年前から Outlook Express を利用するようになりました。

送受信したメールデータは各職員が使用している PC 内に保存されていますが、最近になって PC が故障し、メールデータを損失するケースが散見されるようになりました。このデータ損失に備えるべく探し始めたのがきっかけです。



■ メールデータの損失をご検討されるきっかけだったようですが、この損失被害についてもう少しお話をいただけますか。

現在使用している PC については、導入後 5 年近く経過するものもあり、ここ最近になってハードディスクの故障が年間 2～3 台程度発生しています。ハードディスクが認識できないトラブルについては、メールデータ復旧のために外部のデータ復旧サービスを利用したこともありましたが、高いケースで数十万円程度のコスト負担となり、さすがに大きな痛手でした。そこで、なるべく少ない費用で導入できるデータ保全システムはないものかと本気で考えるようになりました。

■ 数あるデータ保全対策システムの中から「SmartHDD Manager」のご導入に至った“決め手”は何でしたか。

導入に至った“決め手”としては、大きく次の 2 点が挙げられます。コスト面との兼ね合いも考慮すると、「SmartHDD Manager」が当方のニーズに適した商品であると感じました。

「SmartHDD Manager」導入の決め手

1

最小コストで実現できるデータ保全対策

バックアップシステムを導入した場合、相当な容量のバックアップ用ディスクを準備する必要があり、コスト負担は無視できない。その点「SmartHDD Manager」によるハードディスクの故障監視であれば、壊れる前にドライブ交換を行うことでデータ損失を回避できるため、コスト面の懸念要素である“バックアップ用ディスク”は不要となる。加えて、「SmartHDD Manager」自体も手軽に導入できる価格であるなどコスト負担が少ない。

2

インターコム商品に対する安心

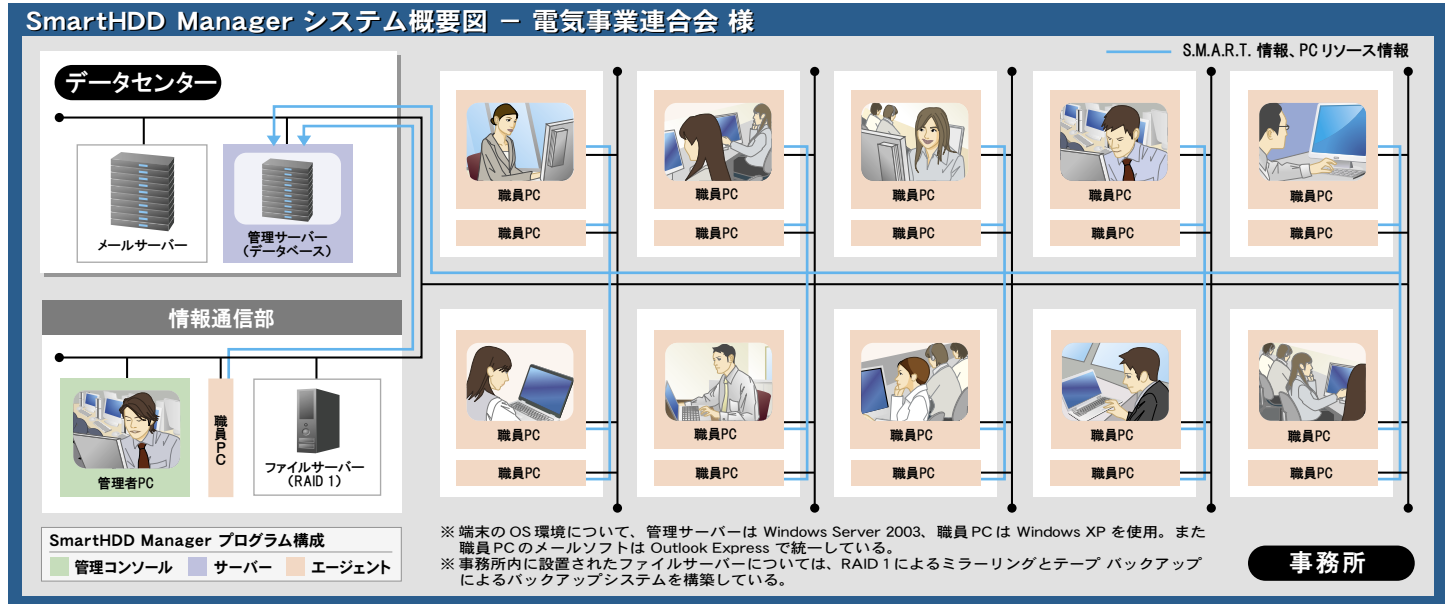
電力会社の数社では 3270 エミュレータ（IBM 社のメインフレーム用端末エミュレータ）として、インターコムの「FALCON」を利用している。インターコムブランドについては以前より信頼がある上に、特にトラブルの多い商品という印象もなく安心感がある。

導入の状況 目立ったトラブルもなく、翌月からの本格稼働に備え 220 台の PC に導入済み

■「SmartHDD Manager」の現在の導入状況を教えてください。

現在、事務所内にある約 220 台の Windows PC に導入しています。各職員 PC の S.M.A.R.T. 情報およびリソース情報は、データセンター内に設置した管理サーバーに集約し、事務所内に設置した管理者 PC より一括管理を行います。職員 PC 上のメールデータの損失対策として、2008 年 3 月からの正式稼働を予定しています。

なお、事務所内に設置しているファイルサーバーについては、既にバックアップシステムを構築しており、職員が作成した各種資料・データは、このファイルサーバーに保存することでデータの保全を行っています。



効果と展望 故障時期の事前把握によるデータ保全と PC 保守業務の効率化に期待

■「SmartHDD Manager」の本格稼働により、期待される効果について教えてください。

“導入の経緯”でも触れましたメールデータの保全など、次の 3 点を導入効果として期待しています。既に設置しているファイルサーバーへの各種資料・データの保存と今回の「SmartHDD Manager」による故障監視により、職員 PC 上の重要なデータは概ね保全できるものと考えております。

「SmartHDD Manager」期待する導入効果

1 職員 PC 上のメールデータの保全

仮にハードディスクが故障した際に、都度外部のサービスを利用してデータ復旧を行ったとすると、近年の故障状況を踏まえれば“年間あたりおよそ数十万円 × 2 ~ 3 台分の復旧費用”がかかることになる。「SmartHDD Manager」で故障日を事前にキャッチして、適切なタイミングでドライブや PC 本体の交換を行うことができればこの復旧費用を削減できる。

2 ライセンス管理の的確化

業務に必要なソフトウェアはその都度購入しているが、当会では 2 ~ 3 年おきに職員が入れ替わるため、どの職員 PC でどのソフトウェアが使用されているのかが一元的に管理できていなかった。「SmartHDD Manager」でライセンス管理[※]を行うことで、購入済ライセンス数と実導入数の突き合わせを行うことが可能。将来、ライセンス管理者が異動となった場合でも、後任の方へ管理情報のスムーズな引継ぎができる。

※ 職員 PC より収集した各種リソース情報をもとに、ソフトウェアなどの導入状況のレポート化が可能。

3 情報通信部門の業務効率化

ハードディスクの故障時期が事前にわかれば、ドライブや PC 本体の交換などの作業を計画的に実施できる。予期せぬ突然の復旧作業を極力回避することで、職員 PC の更新業務を効率化できる。

●開発・販売

株式会社 インターコム

〒110-8654 東京都台東区台東 1-3-5 反町ビル

営業部 TEL : (03) 3839-6380

ホームページ <http://www.intercom.co.jp/>